

# 2018ロシアワールドカップ紀行

旭川市医師会  
市立旭川病院

## 石井 良直

2017年8月31日、サッカーワールドカップアジア最終予選、日本 vs オーストラリア戦、埼玉スタジアムで観戦。2-0の完勝は予想以上の出来であり、日本はワールドカップ6大会連続の出場を決めた。実はその前に日本がワールドカップに必ず出場すると信じ、すでにモスクワ行きの飛行機は押さえてあった。

大学時代のサッカー部の後輩と二人で6月24日に成田からモスクワに直行便で飛び、モスクワで1泊。夕方モスクワの地下鉄を降りてホテルに向かっている間に、予選リーグ第2戦の日本 vs セネガル戦がキックオフとなった。ハーフタイムに近くのスポーツバーへ行き、後半はロシアンビールを飲みながら大画面で観戦。結果2-2の引き分けであった。

25日にモスクワから空路でサンクトペテルブルクへ。夕方に民族舞踏ショーを楽しみ、レストランでボルシチとビーフストロガノフを堪能。

26日は午前中に、有名なエルミタージュ美術館を鑑賞し街並みを楽しみ、夕方にアルゼンチン vs ナイジェリアの試合を観戦に地下鉄にて移動。大勢の熱狂的アルゼンチンサポーターが「マラドーナ!」「メッシ!」とずっと大合唱しており、地下鉄乗車中も飛び跳ねながら歌い続けていた。試合は1分け1敗で後のないアルゼンチンが何とかメッシの今大会初ゴールもあり勝利して、ベスト16に勝ち上がった。実は、目の前で見る事ができたメッシの得点はメッシ自身今大会の唯一の得点であり、おそらくワールドカップでの最後の得点になるであろう記念すべきゴールだと感慨に浸った。今回はアルゼンチンのユニフォームをまとったメッシを一度は見てみたいと思い、日本戦以外の観戦に加えたのだが、白夜のサンクトペテルブルクの街並みと良い思い出となった。

27日、空路でモスクワ乗り継ぎでボルゴグラードへ。いよいよ日本戦予選リーグ3戦目である。ここまで1勝1分けできたので消化試合にならなくて良かったし、決勝トーナメントがかかる大事な試合である。到着した夜は夕食後、バーに立ち寄ったが、明日の対戦相手のポーランド人サポーターオヤジ2人組と隣席になった。こちらは日本人オヤジ2人で、記念撮影をしてお互い明日の試合の健闘を誓い合っ

て別れた。

28日試合当日は最高気温が40度近くにまで上がり、直射日光はかなり辛かった。今回のワールドカ

ップマスコット、ザビワカ君の絵入りのブルーのキャップを被って会場へ。試合当日は今回導入となったビザ代替りのFAN-IDを首からぶら下げていれば会場へのバスやトラムは無料である。7:3くらいでやはりポーランドサポーターの方が多いか。試合は先発メンバーを大幅に変えた日本が、負けているにもかかわらず最後の10分をボールキープして試合を終わらせる作戦に出た。もちろん勝っているポーランドも取ってボールを取りにいかないという珍しい展開となった。当然私もブーイングしたが、勝ち上がるための作戦の一環であれば致し方ないか。確かに今大会得点のないレバンドフスキーが最後に面目躍如を狙っており怖かったし、同点に追いつける雰囲気もなかったの、結果論で西野監督の名采配?ということにしておこう。

29日は空路で再びモスクワに戻り、赤の広場、グム百貨店、ワシリイ大聖堂、クレムリンなどを見学し、30日に帰国の途についた。

試合会場、FAN FESTA会場、赤の広場、空港、あらゆる所のセキュリティが厳しく、荷物検査、携帯やタブレットの画面も見せないといけなかったり、FAN-IDを導入したりなど、プーチン大統領の国の威信をかけてテロなどの事件や暴動がなく無事大会を成功裏に終わらせようとする強い意志を感じた。また、これも当局が決めたことのように、試合当日の開催都市ではアルコールの販売が禁止されており、スーパーに行ってもアルコールを売ってくれず、観戦後の暑い夜に部屋でビールを飲むことができなかったのが辛かった。ただ、若いボランティアの人々とのすれ違うときのハイタッチは気持ち良かったし、各国の代表ユニフォームを着て街を歩いている人々も大勢おり、国際色豊かでman-watchingも楽しかった。セキュリティが厳しいことで夜の街も安全に歩けたようだ。物価は、ロシア内移動の飛行機代とホテル代が高かった面を除くと、タクシー、食事代は安くて、料理もまずまず美味しかった。

2002年の日韓ワールドカップの際は、日本のワールドカップ史上初勝利となった横浜での日本 vs ロシア戦を観戦し、いつか海外でのワールドカップに行くことを思い、念願叶って今回ロシアに行くことができた。2022年のカタールはちょっとハードルが高いので、2026年のアメリカ・カナダ・メキシコの共同開催に、元気に現地で観戦できることを願っている。